

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第19号
2018(平成30)年7月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

数時間、釘付けに — 古文書から見えてくる世界 —

奈良県立図書情報館の受付カウンターで、館員の方と一緒に蔵書検索をしている時でした。「綿」をキーワードに検索をかけると、古文書がヒットしました。デジタル化されている古文書はパソコン上ですぐに閲覧が可能です。デジタル化されていない文書も、大半は原本の閲覧が可能です。私が驚いていると、館員の方は次からつぎへと「綿」に関する古文書をピックアップして下さいました。情報館には古文書や絵図類も架蔵されており、そのタイトル(書名)に基づいて分類整理されています。奈良県立図書情報館のトップページにある「まほろばデジタルライブラリー」から利用が可能です。そして、さらに検索をすすめていると、県内各市町村史に収められている古文書類も数多くヒットしました。これにはおおいに刺激を受けました。なぜなら、私はこれまでに一度も地元『天理市史』の史料編に目を通したことがなかったからです。

早速、天理にもどり『改訂天理市史』(昭和51年)の「史料編」第2巻、第3巻(いずれも昭和52年)を繙いてみました。面白いです! 数時間、釘付けになってしまいました。

たとえば、各村の明細帳が掲載されています。そこには村毎の作付け面積、収穫量。畑の作付面積、栽培品目等が、田畑のランク(上々、上、中、下、下々)別に記されています。また、戸数、男女別住民数、寺社や溜池、橋、職人の数、主要地までの距離等々がこと細かに報告されています。一例を挙げると以下の通りです。

『大和国山辺郡指柳村差出明細帳控』文政七年申九月 (『改訂天理市史』史料編第3巻368~375頁)

一 高五百七拾三石壺斗五升 此反別三拾町八反六畝二十四歩 (中略)

一 竈数四拾貳軒 当申春改

内 貳拾貳軒 高持 拾五軒 無高 六軒 家無

此人数貳百拾貳人 内 男百四人

女百八人

牛 三疋御座候

馬 無御座候

外ニ薬師堂守り真言宗僧老入

(中略)

一 田畑木綿大概惣反別之内三步通仕付申候

一 田畑木綿者八十八夜前後ニ蒔付、八月節前後より吹出シ、十月節迄吹仕廻申候

但シ当村用水不足之所故、木綿作年々三步通余茂仕候、殊ニ三年ニ壺度ツ、木綿作不仕候而者稲作出来少分ニ相成り申ニ付、三步通り余致し来り申候 (中略)

田畑壺反歩ニ付 木綿種 貳貫目 (以下略)

上記の「指柳村」は現在の天理市指柳町にあたります。JR近鉄天理総合駅の北西方向に広がる一帯です。田畑の作付総面積の約3割が、毎年綿作に当てられていた状況が見てとれます。



綿と同じ仲間のムクゲの花

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年6月24日~平成30年7月23日)
静岡県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年6月24日~平成30年7月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件8名



【ワークショップ】 — 綿繰り、糸紡ぎをしてみましよう — を担当

平成30年7月14日（土）午後1時30分～3時 関西セミナーハウス（京都市左京区一乗寺）にて開催
今回のワークショップは、関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会主催の開発教育セミナー第2回、「ビジネスで持続可能な社会をつくる～タオルから織りなす豊かな社会」（講師はIKEUCHI ORGANIC 株式会社代表の池内計司氏）のオプションプログラムとして企画されたもの。

内容は、まず90分の流れを説明した後、綿の歴史と種類について簡単に解説。ひきつづき綿の栽培方法についてスライドを用いて説明。その後、綿繰りと綿打ち（竹弓、唐弓）、糸車、チャルカ、スピンドルを用いての糸紡ぎの方法を実演。みなさんそれぞれに綿繰り、綿打ち、糸紡ぎを体験していただきました。今回は特に、「じんき」2.5gとスピンドルのセットと、実綿10gをみなさんにお配りして、糸紡ぎと綿繰りに取り組んでいただきました。参加者は18名。

また、会場には草木染めの作品や、各地の和綿の実綿を展示して、それぞれの微妙な味わいの違いに触れていただきました。ご参加くださいましたみなさん、ほんとうにありがとうございました。



《草木染め：ベニバナ染め — 平成30年7月6日》

今春に2号畑に蒔いた紅花が順調に生長。大雨予報を受けて7月4日に花摘みを行い、138.5gの花弁を収穫。翌7月5日に花餅をつくり、翌日その際に採れた一番絞り黄汁液100ccに水1,000ccを加え、木綿布96gを浸け、藁灰液で媒染。初回はきれいなピンク色に染まりました。次が本番です。

《綿の栽培記録 2018》 — 平成30年度版 その3 —

- 7月3日（火） 和綿の摘芯を行う。主枝の背丈60cmで摘芯。
- 7月5日（木） 和綿の開花を確認。右の写真は7月23日の和綿の様子
- 7月7日（土） 洋綿の開花を確認。7月23日の洋綿背丈90cm。



【綿の加工の作業記録】（梅田1人の作業量）

- 糸車を用いての糸紡ぎ量（和綿：平成28年, 2016産。丹羽正行氏による打ち綿）
6月24日～7月23日（作業実日数24日） 糸の総量117.2g（31.25匁） 総時間231分（3時間51分）
※1分間≒0.507g 1時間≒30.4g（8.1匁）

【研修等の記録】

- 平成30年7月01日 西井康元と藍山会藍染作品展（大和郡山城ホール）を見学
- 平成30年7月14日 関西セミナーハウス（京都市左京区一乗寺）にてワークショップを担当

【以下の写真は、左：和綿の花、中：洋綿の花、右：ベニバナの花の様子です】

